

新年のご挨拶

日高農業改良普及センター所長 江森 健 司



新年明けましておめでとうございます。
います。

平成23年の新春を迎え、謹んで
ご挨拶申し上げます。

昨年は、7月から8月にかけて
の記録的な猛暑や大雨など異常気
象による被害が心配されましたが、
最終的には一部作物を除きましたが、
ほぼ平年並みの作柄を確保出来ま
したことに関係者として安堵して
いるところであります。

品目別には、水稲は全道作況指
数98に対しまして、日高は地域差
はありましたが、作況指数101
と平年並みを確保出来ました。

また、「デビュー」二年目を迎えた
「ゆめぴりか」は、タンパク値が
やや高いものの、アミノ酸値が
低く、食味の良い米が生産されて

おります。

牧草は、一番草・二番草ともに
断続的な降雨により乾燥が進まず、
収穫時期や圃場によつては、収量
・品質に大きな差が見られました。
サイレージ用トウモロコシは、
春先の播種が遅れたものの、夏場
の高温により登熟が順調に進み、
良好なサイレージ用トウモロコシ
が生産されました。

地域の特産であるミニトマトは、
夏場の高温により草勢が低下し、
やや低収量となったものの品質が
良く、市場価格の高騰にも支えら
れ、過去最高の販売結果だと聞い
ております。

肉牛は、4月に宮崎県で発生し
た口蹄疫の影響が懸念されたもの
の、静内産黒毛和牛は、素牛が市
場で高い評価を受けて販売されて
おります。

一方、軽種馬は地方競馬の衰退
や景気低迷により市場価格が下落
し、経営を圧迫するなど取り巻く
環境が悪化しており、今後、強い
馬づくりとともに経営体質の強化
経営の複合化・経営転換の取り組
みについて、関係者がより一層力

を合わせて進めていくことが求め
られております。

今、地域の農業・農村は大きな
転換期を迎えています。

国際的には、WTO農業交渉や
日豪EPA交渉は進展していない
ものの、関税が原則完全撤廃とな
るTPPへの参加の検討が本格化
しており、地域でも大きな影響が
出ることを危惧しているところで
あります。

また、国の農政も大きく変わり、
食料自給率の向上や農業・農村の
六次産業化等を目指した「食料・
農業・農村基本計画」の見直し
がされ、「戸別所得補償制度」は、
本年度から畑作を含む本格実施に
向けた取り組みが進められており
ます。

当普及センターでは、昨年
地域農業の維持と農村の活性化を
支援するために、人材育成、情報
・クリーン・有機、合理化・組織
化、高付加価値化をそれぞれ担当
する新しい部署が配置されました。

地産地消の取り組みや異業種と
の連携による付加価値の高い産地
ブランドづくり、多様な担い手の
育成及び確保・支援、そして、食
の安全・安心に配慮し、環境に調
和した農業の推進など「担い手が
安心して残れる」地域づくりを目

指した活動を進めてまいります
ので、宜しくお願い致します。
本年が、皆様にとりまして、
希望に満ちた年となり、地域に
とって豊穣の年となりますこと
をご祈念申し上げます、年頭のご挨拶
と致します。

